

馬場小室山遺跡フォーラム」第70回ワークショップ**【原動力！パブリック・アーケオロジー2015】**

馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジーからみえてきた現代社会との「かかわり」と未来への新たな挑戦

1.【先史の秩父スタディーズ】：秩父の地域性について横瀬町歴史民俗資料館で学びます！

・横瀬町歴史民俗資料館で深田芳行さんのこれまでの石器研究を中心とした横瀬町遺跡の特徴を検討します。横瀬町の縄文時代遺跡と資料は早期と前期の石器、及び中期の土器石器、そして一部晩期後葉も見られますが、後晩期遺跡は調査が行われておらず、資料は乏しいようです。以前より「安行3d式」が出土する入間川流域の飯能市**加能里遺跡**との異質な関係が気になっています。近年では「製塩土器」の報告もあり、標高が100m超の「製塩土器」出土遺跡と言えば、青森県階上町が著名なように、海方面である入間川下流域との関係に雄弁な点が強調されます。後晩期の秩父スタディーズは次回に皆野での検討を予定します。

2.【「混交玉文化」と晩期ヒスイ製品の流通】：馬場小室山遺跡採集のヒスイ小玉から晩期社会を考える！

- ・9/5(土)の「翡翠フォーラム in 朝日町」では、縄文時代中期の硬玉大珠流通の通説である「**製作地一元説**」に対し、多摩ニュータウン No.72遺跡などから「**製作地多元説**」を上梓し、広域の流通背景として「**広域混交集落**」の出現を重要なイベントとして注目しました。中期のヒスイ研究において「製作地多元説」は土器の移動から導かれた仮説であることを明らかにし、「**ヒスイは土器から**」と言う接近法も併せて提示しました。
- ・一方、中期の「製作地一元説」も晩期には東北地方で玉つくり遺跡が見られますので、既に寺村光晴氏(1995)も晩期のヒスイ流通は山形県玉川遺跡などに注目しながら「製作地多元説」と考察しています。とすれば、馬場小室山遺跡採集のヒスイ小玉を契機として、土器の系統を同じくする渡良瀬川流域や隣接する鬼怒川流域と印旛沼周辺についての様相も確認しておく必要があります。
- ・渡良瀬川流域は桐生市**千網谷戸(ちあみがいど)遺跡**が古くから著名です。重要文化財に指定された出土品にも石製垂飾具として「混交玉文化」がパンフレット紙面(1984)に顕著なうえ、**攻玉拠点遺跡**と考えるべき「**ヒスイ原石とその玉**」が見られます。渡良瀬川流域の中流域では板倉町**板倉遺跡**が千網谷戸遺跡と類似した石製品を出土し、**本(ほん)遺跡では未明**です。下流の流山市**三輪野山貝塚**でも「混交玉文化」の様相が明らかにされ、加曾利B式期遺構内で「**ヒスイ原石の接合した例**」まで紹介されています(小栗信一郎、2005)。
- ・印旛・手賀沼周辺も古くから印西市**天神台遺跡**と佐倉市**神楽場遺跡**が攻玉拠点遺跡として著名で、房総では13の攻玉遺跡が追及される(小林清隆、2004)とともに、佐倉市曲野内貝塚でも攻玉遺跡の特徴が見られる(阿部芳郎ほか、2004)ことから、印旛・手賀沼周辺では攻玉遺跡を特徴とする地域文化が顕著です。
- ・馬場小室山遺跡に戻りますと、渡良瀬川流域と比べ、石材による「混交玉文化」は盛んではない、との印象を受けますが、桶川市高井東遺跡でも富士見市正網遺跡でも玉類の出土は少ないです。何故でしょうか？

3.【馬場小室山遺跡の「多世代土器群多埋設深掘大土壌」(「第51号土壌」)のその後】：1世代短い例か？

- ・『佐倉市史 考古編(本編)』(2014)では堀越正行氏が**井野長割遺跡「第8次28号土坑」(径約2.8m、深さ2.5m+推定1mの円筒形)**についてかなり具体的な以下の所見を公表しています。「28号土坑は穴の中間部の壁寄りからは、帯状の炭化物の層が巡るような状態で発見されているが、これは板状のものを多角形状に並べていた痕跡であろう。従って下部は不明であるが、中・上部から発見された土器の中には、2.2mや1.9mという大きな高低差をもって発見されたものがあることから、一気に投げ込んだのではなく、土器を壊してから時間差をもって投棄していたことになる。調査最下面の大きな土器は晩期初頭であることから、少なくとも晩期初頭から中葉までの間、穴は空ろのままであり、その都度、穴の祭祀が行われたということになる。考古学では、屋外の穴を「ピット」とか土坑などと呼び、墓や貯蔵用の穴を想定する事が多いが、大地に穿った空ろな穴を利用した「穴の祭祀」と呼ぶべきものがあつたことも想定すべきであろう。」(P.139)
- ・「多世代土器群多埋設深掘大土壌」は、「**定住制社会**」という新しい制度にかかわる**装置**と考察しますが、例えば「先祖代々」のような祖霊崇拜の具現化に意義を見出すならば、井野長割遺跡例も「定住制社会」の典型的な装置と考えます。**1世代土壌から特定多世代土壌へ、そして所謂「再葬墓」の形成**となります。

4.【「縄文塚」と「縄文沼」について】：さいたまスタディーズ(2/5(金))で馬場小室山遺跡を取り上げます！

- ・さいたま市民への紹介として、「みぬまっぶ」Vol.4の「縄文沼と縄文塚を探そう編」が「見沼文化」の特徴として使えます。現荒川流域では見沼周辺が大宮台地南部の中心で、その拠点集落として馬場小室山遺跡を紹介します。「第51号土壌」に加え、長期間にわたり各方面との交流が活発であることに意義を認めます。

5.その他、ワイン・アーケオロジーによる情報交換会など：県史跡・馬場小室山遺跡を広くPRする活動に注目！

- ・桜エコ・フェスタ2015への参加:11/28(土)準備・29日(日)本番 於:さいたま市桜区桜環境センター
井山紘文さんの**ジオラマ展示・解説と土偶のプラ板制作**を通し、県史跡・馬場小室山遺跡をさいたま市民にPRし、市民団体との交流も図ります。八千代市のイベントと重複し恐縮ですが、どうかご支援ください。

以上